

# ANUBIS COMMENTARY UNIT



## MISSION APPENDIX

06.07.2024



---

# Contents

## [Switching ON MERGING+ANUBIS](#)

### [Product の追加と MLM の機能](#)

## [ANUBIS HOME PAGE and COMMENTARY UNIT MISSION LAUNCH](#)

## [COMMENTARY UNIT MISSION](#)

### [OVERVIEW](#)

### [MISSION SCHEMATIC](#)

### [COMMENTATORS](#)

[Commentator 1:](#)

[Commentator 2:](#)

### [MONITORING](#)

#### [ON-AIR](#)

#### [ON-AIR A/B MODE](#)

[Talkback:](#)

#### [Mute](#)

#### [PREAMPS](#)

#### [EFFECTS PROCESSING](#)

#### [PHYSICAL BUTTONS](#)

#### [WEB INTERFACE](#)

[Commentator selection](#)

[Advanced remote control](#)

[Preset loading and saving:](#)

[Preamps:](#)

[Effects processing](#)

[Settings:](#)

#### [Tablets Remote Access - Using the Anubis IP Address](#)

#### [I/O CONNECTIONS](#)

[I/O Connection の例:](#)

[I/O Connectivity to a Computer](#)

#### [SNAPSHOTS](#)

#### [REST API](#)

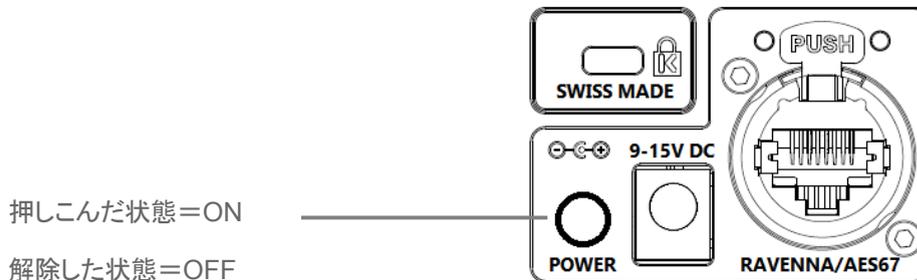
#### [Identify Me – Device Location](#)

[手順](#)

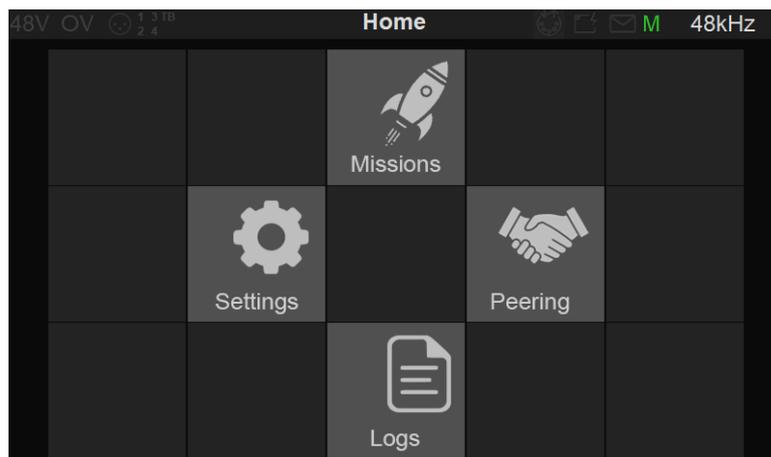


## Switching ON MERGING+ANUBIS

1. 本機のリアパネルにあるDC入力の横にあるスイッチを、バックパネルの図のように押してください。



2. 本体が起動すると、Anubisソフトボタンがオレンジ色に点灯し、その後すぐにTFTディスプレイが表示されます。この間に、本機は一連のセルフテストと初期化ルーチンを実行します。
3. Anubisの TFT ディスプレイにホーム画面が表示されたら、本機は使用可能な状態になります。注：Anubisの電源を切るには、POWERボタンを押して解除状態にします。





## Product の追加と MLM の機能

特定の製品(ミッションや機能)には、操作前に有効なライセンス認証キーが必要な場合があります。ライセンス認証キーの購入や試用は、Merging のセールスパートナーにお問い合わせください。キーコードを受け取ったら、Merging License Manager から Anubis に入力してください。

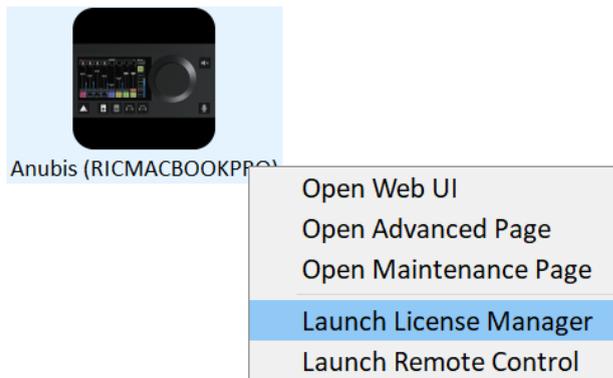
### [MLM でプロダクトライセンスを加える方法](#)

#### 必要なもの:

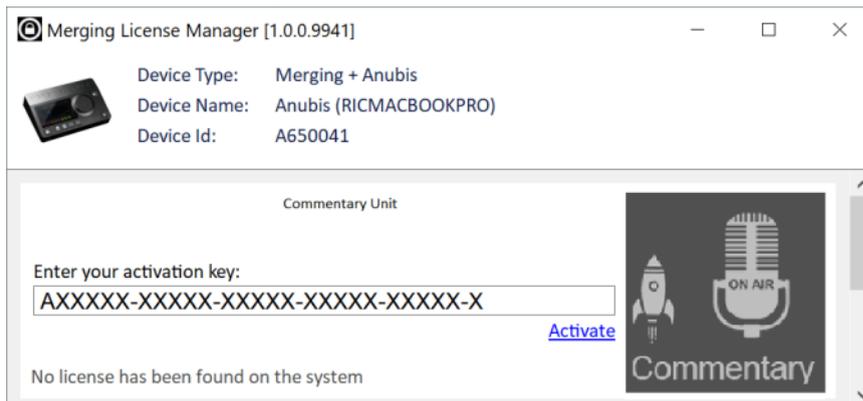
- RAVENNA/AES67でPCまたはMacに接続されているMERGING+ANUBIS
- 有効なライセンス キー コード
- MAD, VAD, ANEMAN, MTDDiscovery のいずれか一つ
- 最新の Anubis Firmware

#### 手順:

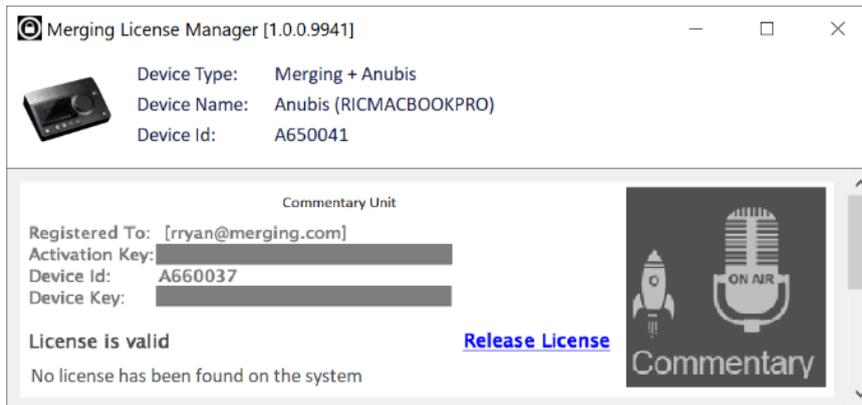
1. AnubisをPCに接続して下さい。
2. Merging アプリケーション(MAD, VAD, ANEMAN, MT Discovery のいずれか)を開いて下さい。
3. Anubisのアイコンを右クリックし、"Launch License Manager" を選択して下さい。



4. これで キーコードを入力する Merging License Manager が開きます。この例では Commentary Unit のアクティベートを行っています。



5. 受け取ったキーコードを入力してください。これは AXXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-X の様なものです。アクティベーション フィールドに入力したら [Activate](#) の文字をクリックして下さい。
6. これによりプロダクトがアクティベートされ Anubis で使用可能になります。

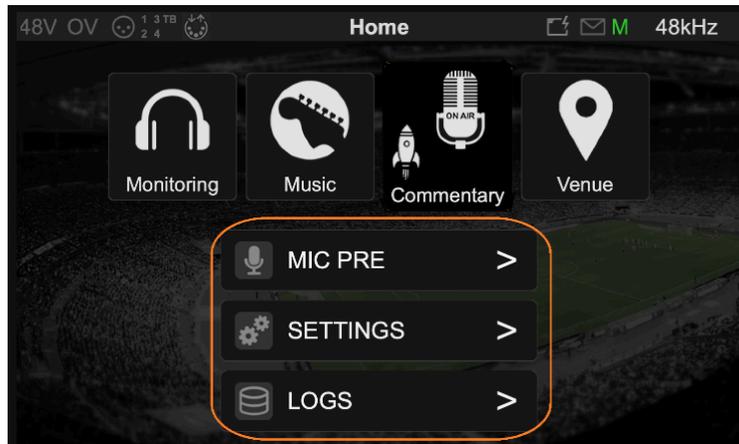


注意: アクティベーション キーコードは 1台の Anubis のみが同時にアクティベートできます。  
別の Anubis をアクティベートしたい場合は、[Release License](#) をクリックしてライセンスを解除してください。

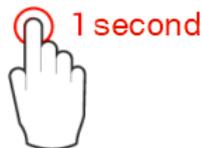


## ANUBIS HOME PAGE and COMMENTARY UNIT MISSION LAUNCH

Anubis の Home ページから **Settings**, **Preamps** ページや **Log** にアクセスできます。



Anubis の Home ボタンを長押しすると Home ページにアクセスできます。



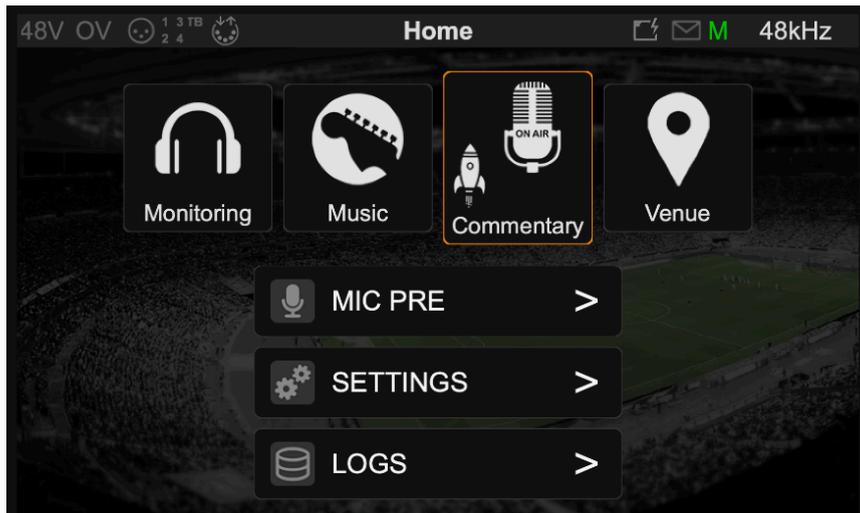
Anubisが Commentary Unit Mission で動作している場合、Anubisのホームボタンを長押しするとHomeまたは Settings を直接開くことができるメニューが開きます。

GENERAL	COMMENTATOR 1	COMMENTATOR 2
RESET PEAKS	MIC EQ	MIC EQ
PREAMPS	MIC DYNAMICS	MIC DYNAMICS
SETTINGS	SIDETONE EQ	SIDETONE EQ
HOME	SIDETONE DYNAMICS	SIDETONE DYNAMICS



Home で Missionsアイコンを押してMissionsページに入ります

起動したい Mission を選んで下さい。現在、Commentary Unit Mission, Music Mission, Monitoring Mission が使用できます。このガイドは Commentary Unit Mission のみを説明しています。



注: *Commentary Unit Mission* のアイコンが表示されない場合は、*Anubis* のファームウェアを最新にし(1.3.0b 以上のファームウェアが必要)、*Commentary Unit Mission* のライセンスを入力したことを確認してください(上記のMLMの項を参照)。

*Commentary Unit Mission* を選択して起動するとメインページが表示されます。

#### *Commentary Unit - main page*



#### *Home - menu options*



## COMMENTARY UNIT MISSION

このユニットの主な機能は、解説の放送やスタジオや施設でマイクとヘッドセットを使用することを想定しています。操作のカスタマイズも可能です。

### OVERVIEW

コメンタリーユニットミッションは、1人または2人のコメンテーターが、最大2つのモノラル インカム、8つのステレオ プログラム、それぞれのサイドトーンをモニターしながら、別々にまたはミックスしてコメントをオンエアすることができます(オプションで自分の声を一時的にミュートしたり、最大4つのトークバックチャンネルに話しかけることが可能です)。

ANUBIS本体のタッチインターフェースで1人または2人のコメンテーターを表示・操作しながら、同時に1つまたは複数のリモートWebインターフェースで表示・操作することが可能です。

ユーザーインターフェースは 完全にカスタマイズすることが可能で、Intercoms, Programs, Sidetones controls, Mute, Talkback, On-Air ボタンの表示/非表示、名前の変更、ロック、設定などが行なえます。

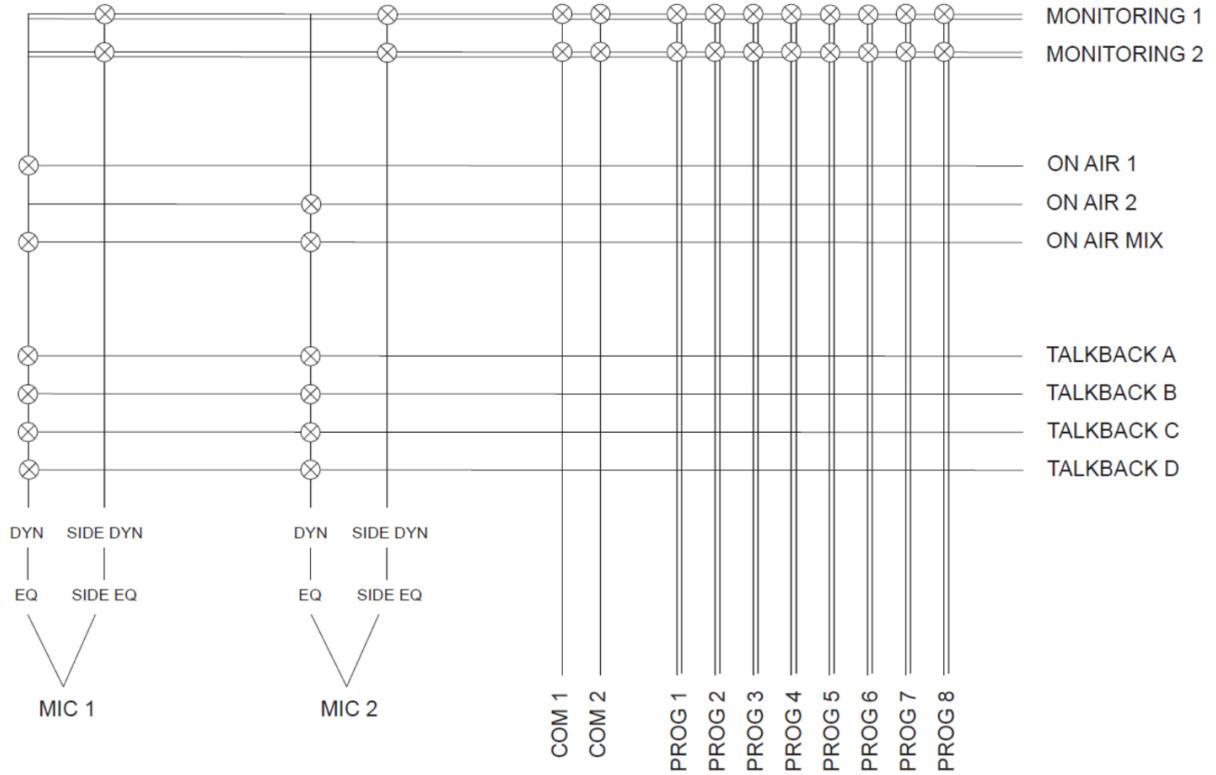
また、この Mission は ANUBIS のローカルタッチディスプレイ、リモートWebインターフェース、GPI/Oコマンド、Webソケットベースの REST API のいずれからでも制御可能です。





## MISSION SCHEMATIC

参考として Mission の信号の流れを以下にご紹介します。



この図にある I/O を内部または外部に接続する方法は、[I/O Connections](#) をご覧ください。



## COMMENTATORS

Commentary Unit Mission は、一人 または 二人 のコメンテーター モードを持っています。



### Commentator 1:

- 常に **Enable** で ANUBISのタッチスクリーンに表示されています。
- **Mic 1** (デフォルト) または 内蔵マイク (**Built-in Mic**) を On-Air, Talkback, Sidetone の入力として使用できます。
- **Mic 1** を使うか **Built-In Mic** を使うかは Settings の **Commentary > Commentatr 1** で設定します。

### Commentator 2:

- タッチスクリーン上に表示させることができますが、この場合 両方のコメンテーターはタッチスクリーンで操作する必要があります。
- タッチスクリーン上に表示させないこともできます。この場合 タッチスクリーンには Commentator 1 が表示されます。Commentator 2 は Webインターフェースで操作するか (Web Intergace セクションを御覧ください)、リモートコントロールで操作します ([REST API](#) セクションを御覧ください)。
- Settings の **Commentetary > Commentator 2** で **Disable** (デフォルト) にすることができます。
- **Mic 2** 入力を On-Air, Talkback, Sidetone 用に使用できます。



## MONITORING

両方のコメンテーターには 専用の **Monitoring** があります。

- 2 インターカム (Mono)
- 8 プログラム (Stereo)
- サイドトーン
- 他のコメンテーターのサイドトーン (Enableになっていれば)
- モニタリング レベル



- **Gain Level** は、それぞれのロータリーコントロールに触った後、メインのANUBISホイールを回すか、ポップアップしたウインドウで調整します。デフォルトでは最大レベルが0dBとなっていますが、Settingsの Monitoring セクションで 6dBか12dBを選ぶことができます。
- **Pan** または **Balance** は、それぞれのロータリーコントロールを長押しして、メインのANUBISホイールを回すか、ポップアップしたウインドウで調整します。パンがセンターになっていない場合、ロータリーコントロールの左上または右上に小さな矢印が表示されます。
- いずれのパラメータも選択されていない場合、ANUBISホイールは **Commentator 1** のモニタリングレベルとなっています。
- Single コメンテーター モードでは 6プログラム、Dual コメンテーター モードでは 3プログラムのみ表示されますが、プログラム列をタッチしてスクロールすることで、それ以外のプログラムにアクセスできます。
- 各コメンテーターの **Sidetone**, **Intercoms**, **Programs** のロータリーは Settings の Commentary > Commentator 1/2 > VISIBILITY で表示/非表示の設定を行うことができます。
- **Intercoms**, **Programs** のロータリーは Settings の Commentary > NAMES で名前を変更することができます。名前は両方のコメンテーターで同じ名前になります。
- すべてのロータリーの底には **LED**メーターが表示され、黒 (信号なし)、緑 (-18dB以下)、オレンジ (-6dB以下)、赤 (-6dB以上) の 4段階で、アクティビティとオーバーロードを簡易に表示します。





## ON-AIR

各コメンテーターは、それぞれの **On-Air** ボタンを押して **On-Air** モードにすることができます。



- On-Air になっている時、マイク入力はそれぞれの **On-Air output** に送られ、ミックスされたものが **On Air Mix output** に送られます。
- **On Air** ボタンは誤操作を防ぐために Settings の Commentary > Commentator 1/2 > Lock でロックすることができます。この時、コメンテーターは常に **On-Air** になります。
- あるコメンテーターの **Mute** または **Talkback** が有効になると、
  - そのコメンテーターのマイクは **On-Air** と **On-Air Mix** の出力から取り除かれます。
  - On-Air ボタンがグレーになる。
  - On-Air に割り当てられた物理ボタンが点滅します。
- On-Air ボタンを長押しするとフルスクリーンで表示されます。
  - その場合 On-Air ボタンは両方のコメンテーターの On-Air となります。
  - もう一度長押しするとデフォルトのサイズに戻ります。





## ON-AIR A/B MODE

Commentary Unit を **On-Air A/B Mode** に切り替えることで、2カ国語コメントリーに対応することができます。

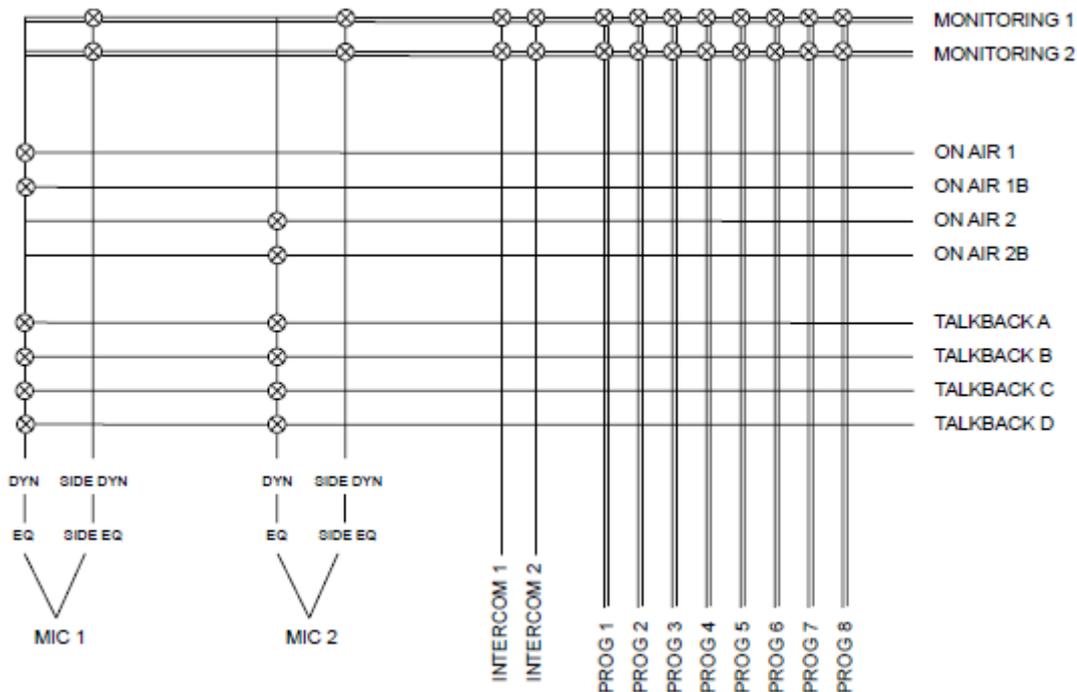
このモードは、Settings の **Commentary > Options** で有効にすることができます。

このモードでは、両方のコメントリーがタッチスクリーンとWebインターフェースに2つの **On-Air** ボタン (**On-Air / On-Air B** または **On-Air 1 / On-Air 1B / On-Air 2 / On-Air 2B**)を表示します。



2つのOn-Airボタンは相互に排他的で、一度に選択できるのは2つのOn-Air出力のうちの1つだけです。

このモードでは、Missionのシグナルフローは、コメンテーターごとに2つの On-Air出力 (On-Air 1, On-Air 1B, On-Air 2, On-Air 2B) が提供され、On-Air-Mixがないようになっています。信号の流れは以下の通りです。





## Talkback:

コメンタリーユニットには、A, B, C, D の 4つの Talkback があります。

- 各コメンテーターは、専用の TALK ボタンを押すことで、4つのチャンネルのいずれかに話しかけることができます。Talk ボタンが押されたとき、コメンテーターは On-Air と On-Air Mix から切り離されます。
- **Single** コメンテーター モードでは 4 Talk ボタンが表示されますが、**Dual** コメンテーター モードでは Talk ボタンは 2つしか表示されません。



- 各コメンテーターの Talk ボタンは、ラッチ (Talk のデフォルト) または プレス/リリース に設定できます (Settings の **Commentary > Commentator 1/2 > LATCH** セクション)。
- 各コメンテーターの Talk ボタンは **Commentary > Commentator 1/2 > VISIBILITY** セクションで表示/非表示させることができます。
- 全ての Talk ボタンは **Commentary > Name** で名前の変更ができます。名前は両方のコメンテーターで同じになります。
- **Talkback** が有効になると:
  - **On-Air** と **On-Air Mix** から切り離されます。
  - On-Air ボタンがグレーになります。
  - 物理的な On-Air にマップされたボタンが点滅します。





## Mute

各コメンテーターには **Mute** ボタンがあり、押されると **On-Air** および **On-Air Mix** から切り離されます。

- Mute ボタンは **Commentary > Commentary 1/2 > LATCH** で **Latch** または **Press/Release** に設定できます(デフォルトは **Press/Release**)。
- 誤動作防止の為 **Commentary > Commentary 1/2 > LOCK** で Mute ボタンをロックすることができます。
- Mute ボタンは **Commentary > Names** で名前を変更することができます。名前は両方のコメンテーターで同じになります。
- どちらかのコメンテーターが **Mute** を押すと
  - そのコメンテーターは **On-Air** と **On-Air Mix** から切り離されます。
  - On-Air ボタンはグレーに変わります。
  - On-Air ボタンにマップされている物理ボタンが点滅します。





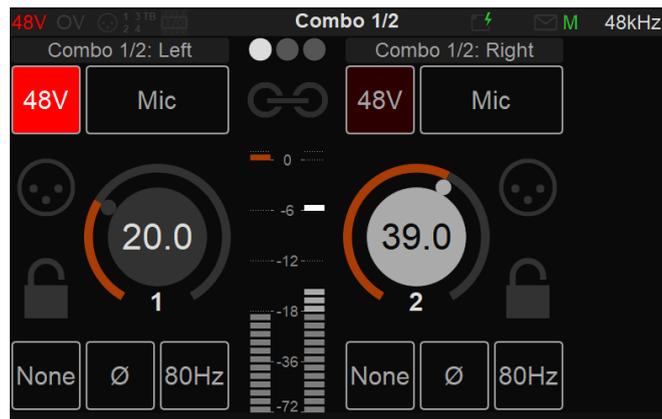
## PREAMPS

Mic 1, Mic 2 Built-In Mic は Preamp settings で調整が行なえます。

- Preamp settings には Home ボタンのメニューからアクセスできます。

GENERAL	COMMENTATOR 1	COMMENTATOR 2
RESET PEAKS	MIC EQ	MIC EQ
PREAMPS	MIC DYNAMICS	MIC DYNAMICS
SETTINGS	SIDETONE EQ	SIDETONE EQ
HOME	SIDETONE DYNAMICS	SIDETONE DYNAMICS

- Preamp Settings



詳細は [Music Mission Appendix](#) を御覧ください。



## EFFECTS PROCESSING

両方のコメンテーターは 以下のエフェクトを持っています:

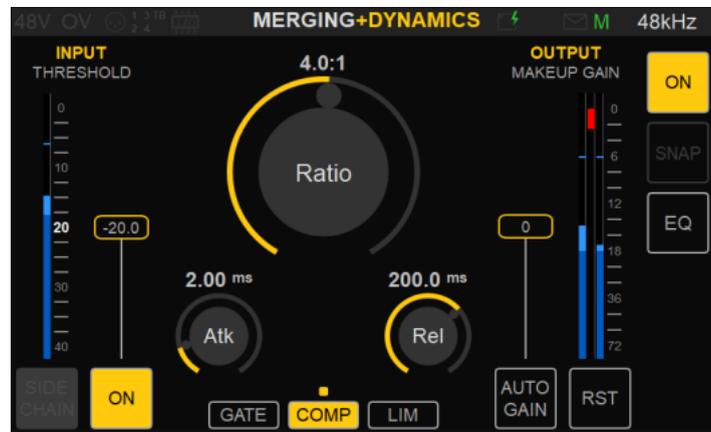
- 4バンド パラメトリックEQ とフル ダイナミクス
- 独立した Mic と Sidetone のパス
- それぞれのエフェクトは Home ボタンのメニューからアクセスできます。

GENERAL	COMMENTATOR 1	COMMENTATOR 2
RESET PEAKS	MIC EQ	MIC EQ
PREAMPS	MIC DYNAMICS	MIC DYNAMICS
SETTINGS	SIDETONE EQ	SIDETONE EQ
HOME	SIDETONE DYNAMICS	SIDETONE DYNAMICS

- 4 band パラメトリック EQ



- Gate, Compressor, Limiter sections Dynamics



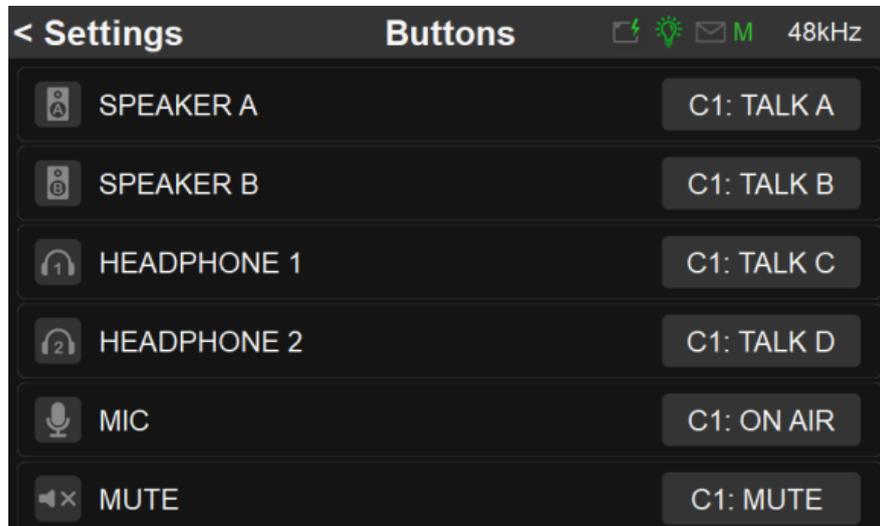
EQ とダイナミクスについては [Music Mission Appendix](#) を御覧ください。



## PHYSICAL BUTTONS

ANUBIS の物理ボタンは On-Air, Mute, Talkback のどれにでもマップできます。

- マッピングは Settings の Buttons セクションで変更できます。



デフォルトのマッピングは:

- Home(長押し):メニュー(変更不可)
- Speaker A: Commentator 1 Talkback A
- Speaker B: Commentator 1 Talkback B
- Headphone 1: Commentator 1 Talkback C
- Headphone 2: Commentator 1 Talkback D
- Mute: Commentator 1 Mute
- Mic: Commentator 1 On-Air

ANUBIS のロータリー ホイールは以下の様に設定できます:

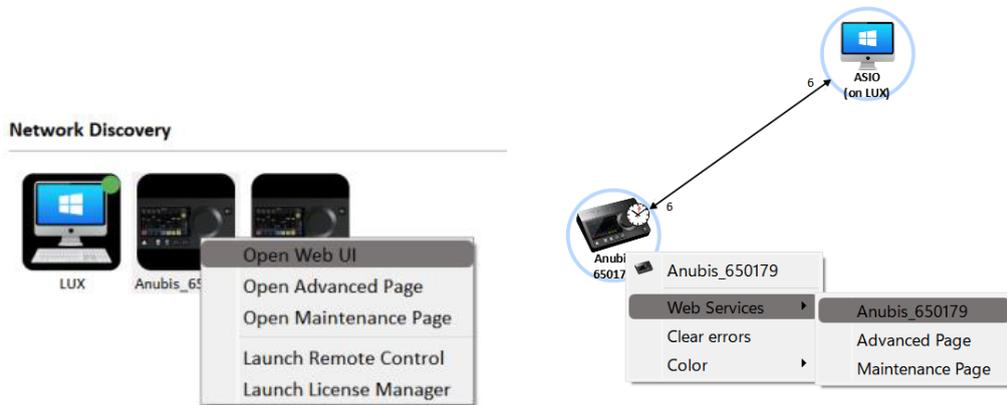
- **OFF**:ホイールが完全にディスエブル
- **SELECTION**:選択しているロータリーコントロールの調整
- **SEL+MON1**:選択しているロータリーコントロールの調整 何も選択していない場合は Commentator のモニター出力(デフォルト)



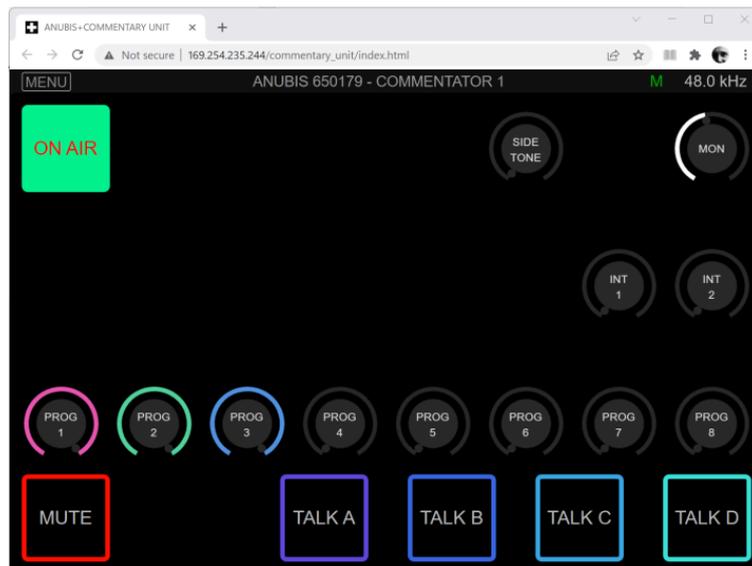
## WEB INTERFACE

コメンタリーユニットの Web Interface は Webブラウザで以下の様に行えます。

- ANUBIS の IPアドレスを URL バー(次の Tablet Remote Access を参照)にタイプします。
- 次のアプリで ディスカバーされた ANUBIS を右クリックしてメニューを選択する。
  - Mac または PC の **ANEMAN**
  - Mac または PC の **MT Discovery**
  - **MAD** (Windows)
  - **VAD** (Mac)



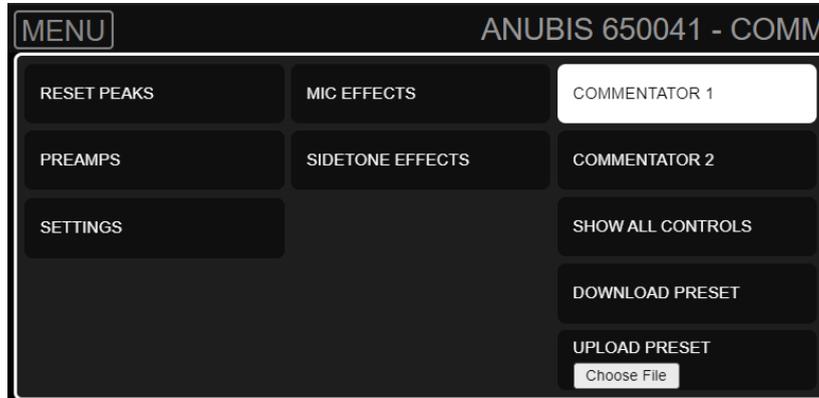
コメンタリーユニットWebインターフェースは、ANUBISユニットのタッチパネルディスプレイを忠実に再現し、さらに拡張して表示します。操作は主に前述したタッチインターフェースで行えます。[Webインターフェース](#)の機能については後述します。





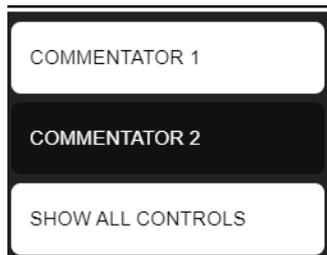
### Commentator selection

Commentary Unit Web Interfaceは、1つのコメンテーターしか表示しません。両方のコメンテーターを表示するには、2つのブラウザタブ または ウィンドウで開いてください。コメンテーター2が有効な場合、Web Interfaceメニューで選択して表示させることができます。



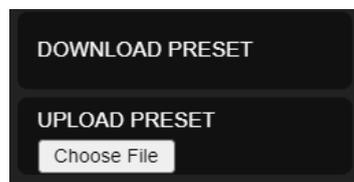
### Advanced remote control

Commentary ユニットの Web Interface は ANUBIS のタッチパネルを模倣していますが、システム管理者がリモートで簡単にユニットの設定を行うために、ロータリーやボタンの非表示をバイパスしてすべてのコントロールを表示することができます。このオプションは、Web Interfaceメニューで選択することができます。



### Preset loading and saving:

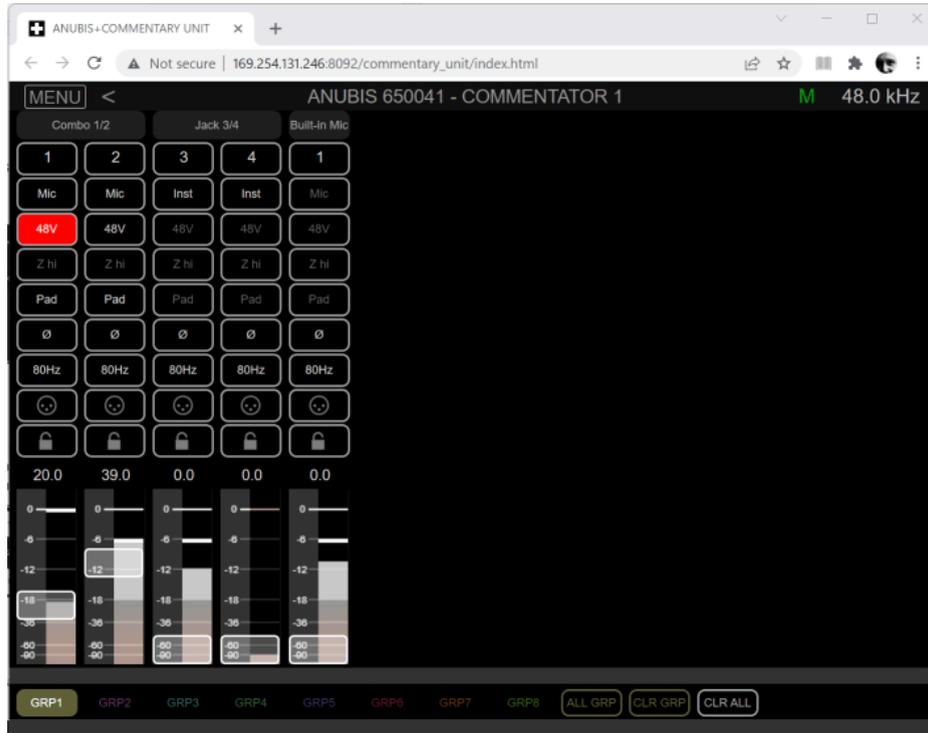
Web Interfaceメニューから、Commentary ユニットの現在の全体の状態をプリセットファイルとしてダウンロードまたはアップロードすることができます。





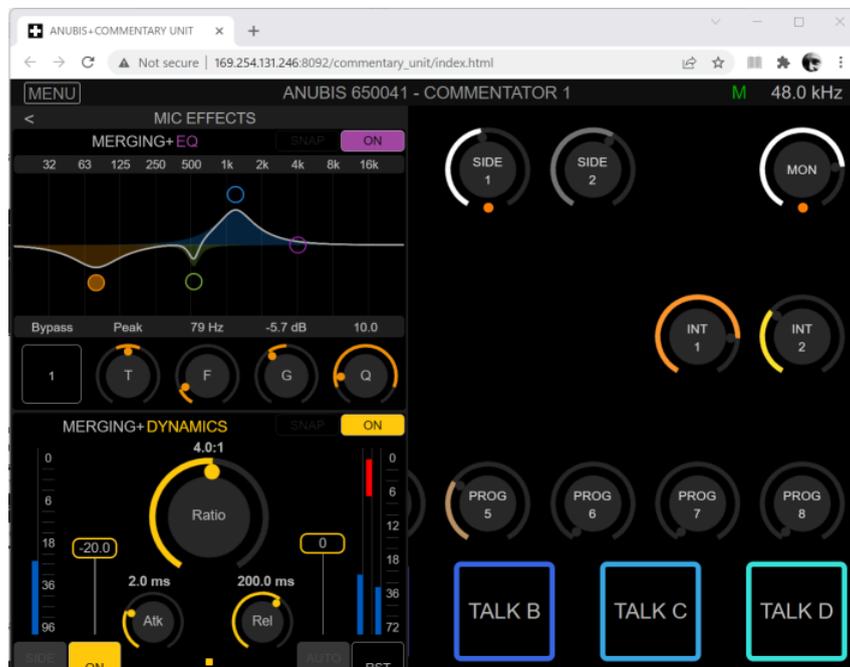
## Preamps:

プリアンプの設定は、Web Interface メニューからアクセスできます



## Effects processing

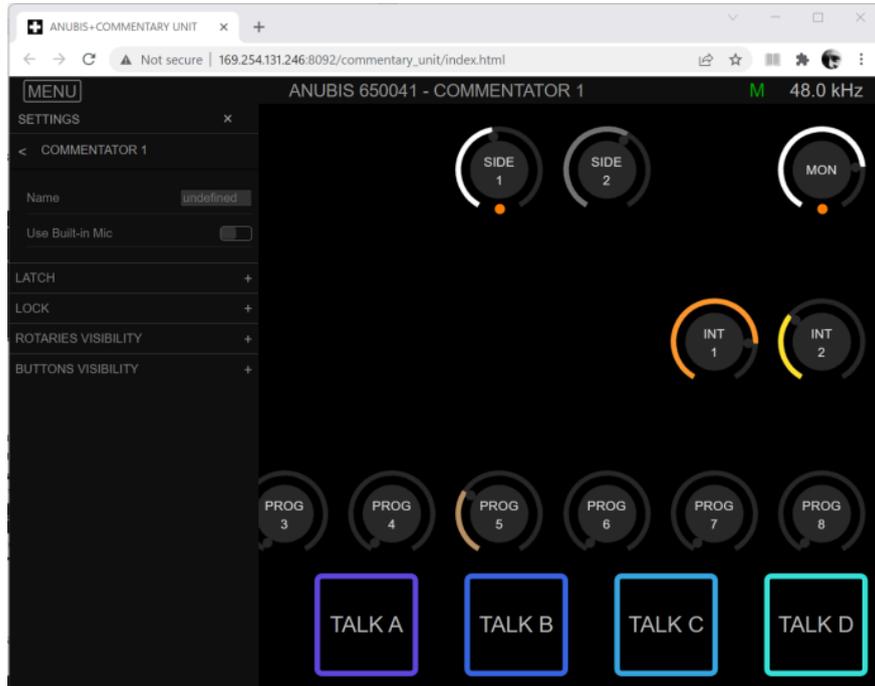
エフェクトのパラメーターは、Web Interface メニューからアクセスできます。





## Settings:

すべての Commentary Unit の settings は、Web Interface メニューからアクセスできます。

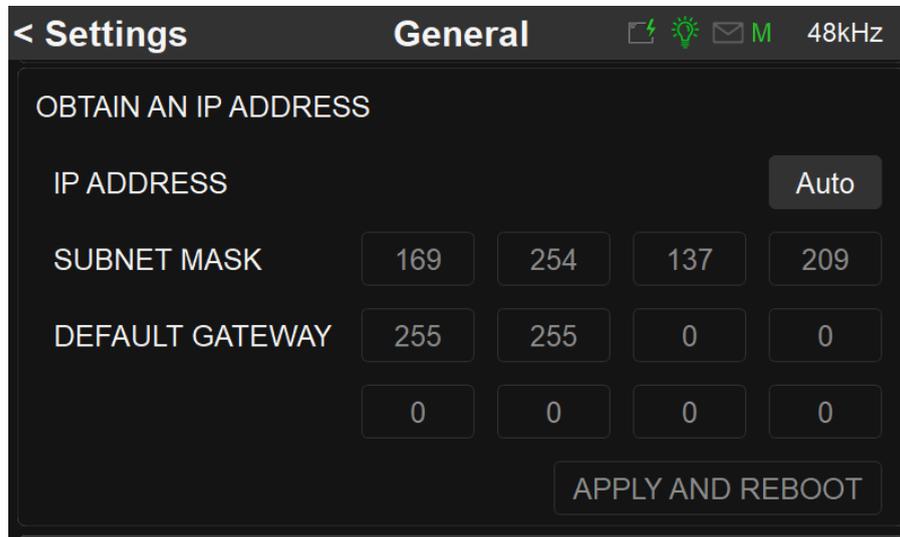




## Tablets Remote Access - Using the Anubis IP Address

Anubis をWiFiのアクセスポイントを持っているネットワークに接続してください。

Settings > General で Anubis の Network IP address を調べて下さい。



Anubis の IP アドレスをタブレットのブラウザに入力すると Remote Web Interface にアクセスできます。

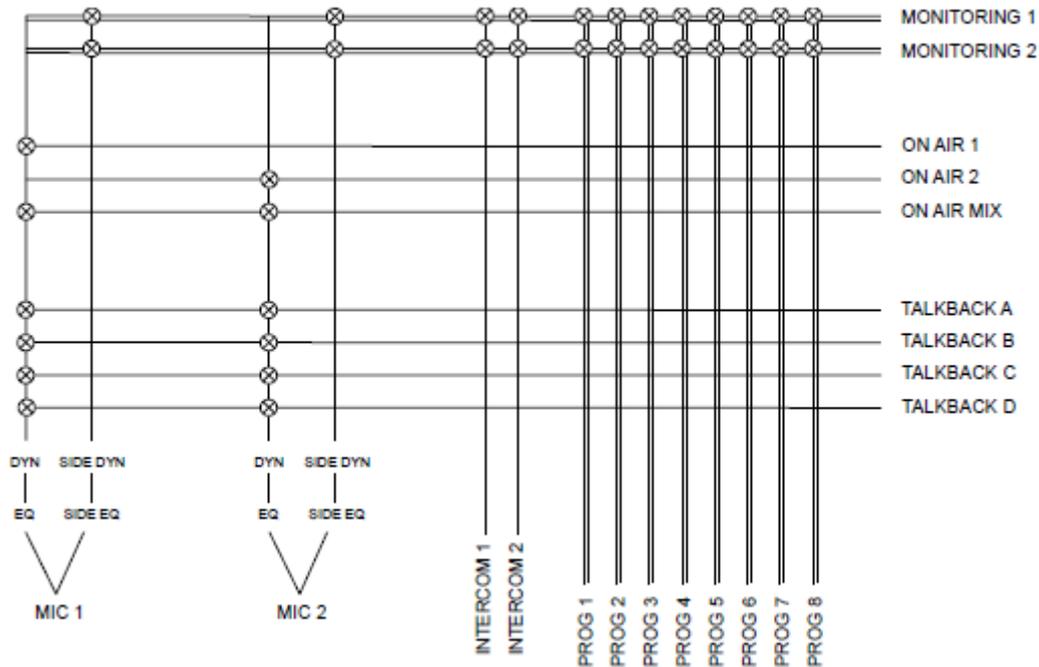




## I/O CONNECTIONS

Commentary Unit ミッションは、ネットワーク オーディオ専用ミッションです。内部コネクションを含め、全ての I/Oコネクションとルーティングは ANEMAN でパッチングされています。

Missionで利用可能な入出力は 以下の図の通りです。



- **Mic 1** は デフォルトで **Commentator 1 Mic Input** にパッチされています。これは Settings の Commentary > Commentator 1 で Built-In Mic Input に変更できます。
- **Mic 2** は 常に **Commentator 2 Mic Input** にパッチされています。これは変更することができません。
- **Commentator 1 Monitoring** は デフォルトで **Headphone 1** にパッチされています。これは ANEMAN で変更することができます。
- **Commentator 2 Monitoring** は デフォルトで **Headphone 2** にパッチされています。これは ANEMAN で変更することができます。
- **4 Talkback outputs, 2 On-Air outputs, On-Air Mix output** は ANEMAN の Sources に現れます。内部(アナログ出力)や 外部内部(例えばアナログ出力の1つ)または外部(他の RAVENNA/AES67デバイス)のいずれかにパッチすることが可能です。
- **2 Intercom inputs, 8 Program inputs** は ANEMAN の Destination に現れます。内部(Line inputs など)や 外部(他のRAVENNA/AES67デバイス)のいずれかからパッチすることが可能です。



## I/O Connection の例:

以下の例は:

- 2系統のモニター出力を Headphone 1 と 2 にデフォルトで送っています。
- Talkback 1 & 2 と On-Air 1 & 2 をネットワークに接続されたコンピューターに送ります。
- Intercom 1 & 2 と Program 1 & 2 をネットワークに接続されたコンピューターから貰います。





## I/O Connectivity to a Computer

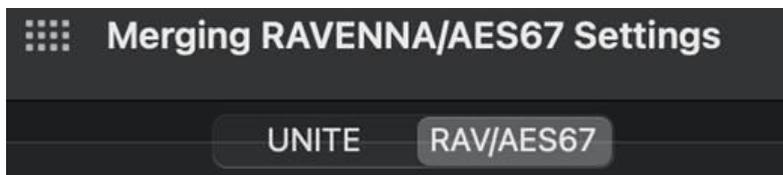
ANUBISは ネットワーク オーディオ インターフェースですので、DAWなどのコンピュータ上で動作する システム アプリケーション で使用する場合は、まず ANUBIS とシステムの Merging Driver との間でI/O ネットワーク ストリーム接続を確立する必要があります。

1. まず **MAD** (Windows) または **VAD** (MacOS) をインストールしてください。

<https://confluence.merging.com/pages/viewpage.action?pageId=45449231>

*Note:* Pyramix MassCore ユーザーはその必要はありません。

2. ドライバーがインストールされ、動作していれば MAD または VAD パネルを開くことができます。
3. ドライバー パネルで **RAC/AES67** モードにしてください。



4. Commentary Unit mission は 複数のデバイスを使用した複雑な AoIP セットアップに柔軟に対応するため、ANEMANを使用することをお勧めします。

*Note:* Anubis Commentary Unit mission は UNITE をサポートしていません。

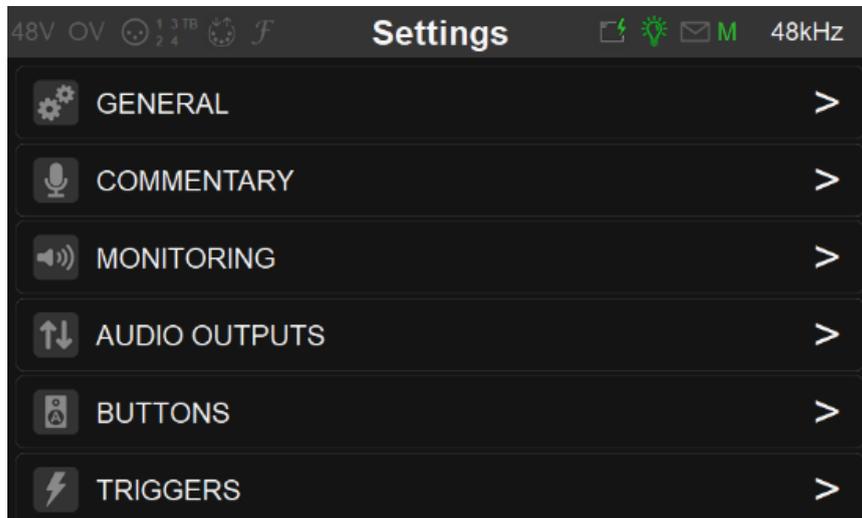
ANEMAN についての詳細は、下記を御覧ください。

<https://confluence.merging.com/display/PUBLICDOC/ANEMAN+-+Quick+Connection+Guide>



## SETTINGS

Connebtary Unit Mission **Settings** は Home ボタンを長押しして表示される Settings メニューから入ることができます。



- **General Section** は、サンプリングレート、クロッキング、ネットワーク設定などの一般的な設定を行います。このセクションの詳細は、Music Mission または Monitor Mission Appendix を参照してください。
  - Commentary Section では、以下が設定できます。
    - 両方の Commentator のオプションの設定：
    - Commentator 2 の **Enable/Disable**
    - Commentator 1 の Mic Input
    - 両方の Commentator の **Naming**
    - **Lock** オプション
    - **Visibility** オプション
  - **On-Air A/B Mode** への切り替え
  - **Highlight Monitors**
    - Enable にすると、Monitor 1と Monitor 2 の両方のボタンが、タッチスクリーンと Webインターフェースの両方で強調表示され、識別しやすくなります。
  - **Naming of all common controls** : 全ての共通のコントロール (Intercoms, Programs, Talkback, Mute, On-Air) の Naming
- **Monitoring Section** では、様々なモニタリングの設定が行なえます：
  - **REF Level**
  - **DIM Level**
  - **Maximum Level**
  - **Programs Dimming**
    - Program の Dim 時に、両耳、左耳のみ、右耳のみのいずれかを選択することができます。



- **Talks Dimming**
  - Talkback ボタンが押されたとき、コメンテーターの Program を自動的にDimします。
- **Talks Splitting**
  - 有効にすると、トークバックボタンが押されたときに、プログラムとサイドトーンが左右の耳にスプリットされます (PROGS/SIDESまたはSIDES/PROGSの選択により、左耳にプログラム、右耳にサイドトーンのどちらか、またはその逆が選択されたことになります)。
- **Talks Boosting**
  - Talkback ボタンが押されたときにマイクから送る追加ゲインを選択することができます。
  - ゲインは、プラスまたはマイナスです。
- **ON AIR Cut Monitor 1**
  - 有効にすると On-Air 時に Commentator 1 モニター出力がミュートされます。この設定はスタジオ内にモニター出力をスピーカーに接続している場合に、オンエア時にマイクへの漏れを防ぐためにミュートする必要がある場合に使用します。
- **ON AIR Cut Monitor 2**
  - 有効にすると On-Air 時に Commentator 2 モニター出力がミュートされます。
- **Audio Output Section** は、すべての Audio Output ステージの設定を変更することができます。詳細は、Music Mission または Monitoring Mission Appendix を参照してください。
- **Buttons Section** は、ANUBIS の物理ボタンをコメンテーターの On-Air, Mute, Talkback にマッピングするためのものです。詳細は、上記の [PHYSICAL BUTTONS](#) を参照してください。
- **Trigger Section** では、コメンテーターの On-Air, Mute, Talkback へのGPI/OとMIDIマッピングを設定します。
- その他の全ての Settings は [Music Mission](#) または [Anubisユーザーマニュアル](#) を御覧ください。

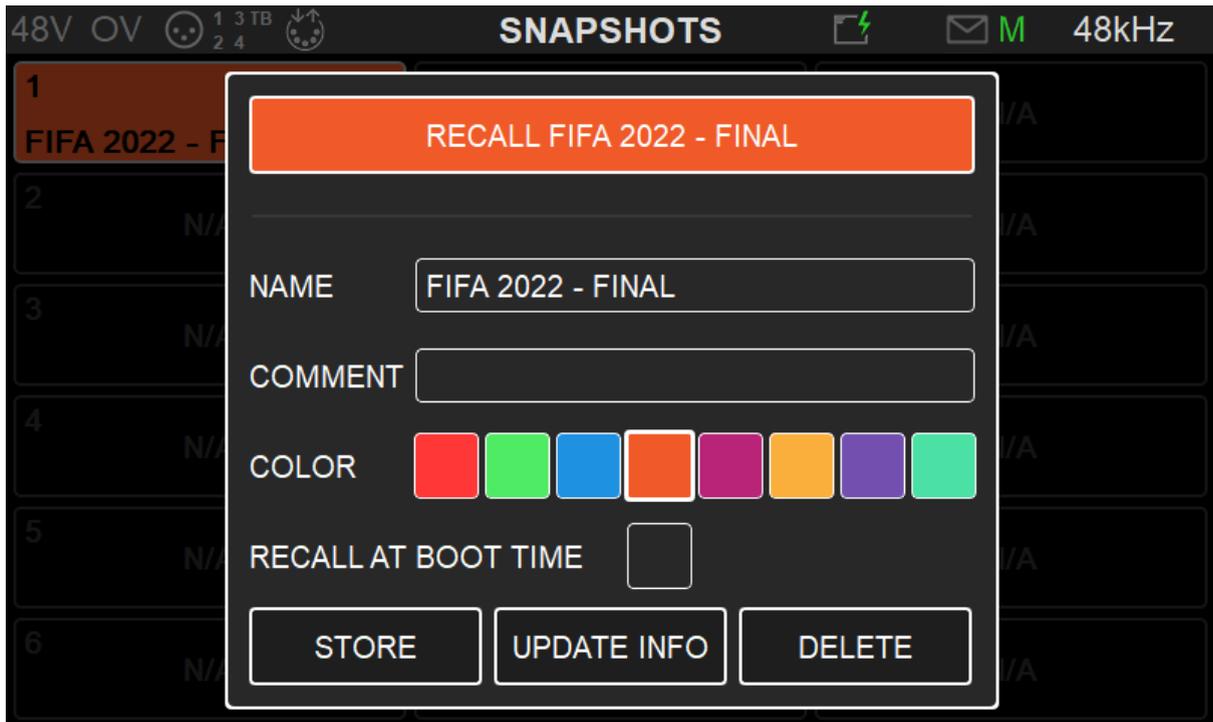


## SNAPSHOTS

Commentary Unit Mission では、18 の Snapshots を保存し呼び出すことができます。

Commentary Unit Mission Snapshots は、Homeボタンを長押しして、**Snapshot menu** を選ぶことでアクセスすることができます。

起動時に自動的に呼び出す Snapshot を一つ選択することができます。これにより電源投入時や再起動時に毎回デフォルトの状態を設定することができます。





---

## REST API

ANUBISは、双方向のリモートコントロールのために、Webソケットまたは CometD を介した REST API を提供しています。

ユーザーインターフェース全体はもちろん、例えば Program Dimming のような 隠れた追加機能にも、このAPIを通じてアクセスでき、放送局のオーケストレーターやコンソールとのより深い統合が可能です。

このAPIの詳細については、販売代理店またはMergingに直接お問い合わせください。



## Identify Me – Device Location

Identify me機能は、ネットワーク上のデバイスの位置を特定するために利用します。ネットワーク上に複数のネットワークインターフェースがある場合、そのうちの1つを特定したいことがあります。識別されたデバイスは点滅し、その位置を確認することができます。

### 手順

1. Anubis の Advanced ページを開きます。  
ドライバー (MADまたはVAD) または MT Discovery で Anubis のアイコンを右クリックして行います。
2. Advanced ページが開いたら ページの右上を御覧ください。
3. Identify Me ボックスにチェックを入れます。

The screenshot shows the 'Advanced' settings page for a RAVENNA AES67 device. The 'Identify Me' checkbox is located in the top right corner, next to the Vendor 'Merging Technologies' and Product information. A red arrow points to this checkbox. Below the settings, there are tabs for 'General settings', 'PTP', 'ASIO Clock', 'Session sources', 'Session sinks', 'Ins/Outs', 'I/O Router', 'Statistics', 'NMOS', and 'System'. The 'Device Name' field is empty, and the 'Audio Configuration' section shows 'Sample rate' set to 48 kHz and 'Frame size (@1FS)' set to 64 smpl. The 'Session Sinks Global' section has 'Safety Playout Delay (@1FS)' set to 0 and 'SSM (requires IGMP v3)' unchecked.

4. これにより Anubis のホームボタンが点滅を開始し、ディスプレイにはダイアログが表示されます。

